



本殿・幣殿・拝殿
国宝

国宝 霧島神宮本殿 幣殿 拝殿
 令和4年2月9日指定

重文 霧島神宮登廊下 勅使殿
 平成元年5月19日指定



霧島神宮

霧島神宮は天孫降臨神話で知られるニニギノミコトを祀る神社です。社殿は霧島山の噴火や火災によって焼失・移転を繰り返しました。現在の社殿は江戸時代の正徳5年(1715)に薩摩藩主・島津吉貴によって建立されました。火山の溶岩の傾斜の上に建てられ、地形の高低差を利用して正面から美しい姿が見られます。社殿内部まで豪華な装飾がなされ、特に本殿の龍柱(りゅうばしら)は南九州独特で、東アジアとのつながりもうかがえます。

鹿児島県霧島市



こんな文化財
 あります!!



本殿及び拝殿・勅使殿
 本殿社四所神社本殿
重要文化財

重文 鹿児島神宮本殿及び拝殿 勅使殿
 摂社四所神社本殿
 令和4年2月9日指定

史跡 大隅正八幡宮境内及び本家跡
 平成25年10月17日指定

鹿

児島神宮

鹿児島神宮は山彦彦(ヒコホホテミノミコト)を祀る神社です。平安時代に八幡神を合祀して「大隅正八幡宮」(おおすみしょうはちまんぐう)と呼ばれるようになり、大隅国一宮とされました。鎌倉時代には大隅国の約43%を領地とし、境内や社家の館跡などから国内外の陶磁器が多数出土するなど、かつて南九州の中心地であったことがうかがえます。現在の社殿は、薩摩藩主・島津重年の奇進により、宝暦6年(1756)に完成しました。本殿の屋根は県内唯一の檜皮葺(ひわだぶき)で、規模は九州最大級です。拝殿の天井画は250枚ほどあり、江戸時代には日本にはなかったような珍しい植物も描かれています。



上野原

遺跡

うえのはらいせき
Uenohara Site

広大な縄文時代の森を感じることができる西日本最大級の縄文遺跡



国史跡 上野原遺跡（鹿児島県上野原縄文の森）

上野原遺跡は、南に錦江湾や桜島、北に霧島山を望む標高約 250m の台地上にあります。縄文時代早期の約 1 万 600 年前に、南九州における定住化初期の集落があったことが発掘調査でわかりました。また、約 8,600 年前には台地南部の最も高い場所で丸と四角の口を持つ 2 つの壺型土器が完全な形で埋まっていた。縄文時代の人々の祈りの様子が伺えます。

「隼人」の墓といわれていた珍しき巨大石造物



国史跡 隼人塚

隼人塚
はやとづか
Hayato-zuka
Mound

隼人塚はマウンドの上に石造の五重塔が 3 基とその四方に石造四天王像が配置される全国的にも珍しい仏教遺跡です。いつできたかは不明ですが、平安時代後期のものであると考えられています。石塔の各層四面には仏像が彫られ、塔の内部に仏像が安置されている様子を表しています。

伝染病や災害などの終息を願った最南端の国分寺

大隅

国分寺跡

おおすみこくぶんじあと
Ōsumi Kokubun-ji
Temple Ruins



国史跡 大隅国分寺跡

国分寺は天平 13 年 (741) に聖武天皇の命によって全国に建てられました。大隅国分寺は明治初年の廃仏毀釈 (はいぶつぎしゃく) によってなくなり、現在は康治元年 (1142) の銘がある六重の石塔などが残るのみです。令和 2 年度に実施した石塔の修復事業で、かつてあったと考えられる木造塔の心礎 (中心の礎石) が出土し、初めて建物に関する痕跡が見つかりました。